



「コニカミノルタ エコ俳句大賞2009」入賞作品が決定

2009年11月27日

コニカミノルタホールディングス株式会社（本社：東京都千代田区、社長：松崎 正年、以下 コニカミノルタ）は、環境に関する思いを五・七・五のリズムにしたための「コニカミノルタ エコ俳句大賞2009」の入賞作品を決定いたしました。

本コンテストは、より多くの皆さまにご参加していただくため、俳句特有の「季語」や、多少の「字余り・字足らず」にはこだわらず、『省エネ』と『エコ（環境）』をテーマに募集いたしました。応募総数は9,284句におよび、2005年から毎年ご応募いただいていた中で、最多となりました。地球温暖化対策が毎日のように話題となる今日、環境への関心の高まりがエコ俳句の応募数にも表れているようです。

入賞作品および予選通過作品はコニカミノルタのWEBサイト (<http://konicaminolta.jp>) でご覧いただけます。また、12月10日から12日まで東京ビッグサイトで開催される「エコプロダクツ2009」のコニカミノルタブース（4-037）でも掲示いたします。

【エコ俳句大賞】

「もったいない それが家族の マニフェスト」（長崎県 よしこ 様）

日本発の環境保護の合言葉である「もったいない」と、「マニフェスト」という流行のキーワードを活かして、家族で力をあわせてエコに取り組む決意をよく表現しています。

【一般部門優秀賞】

「娘には お古と言わず リサイクル」（東京都 鈴木 弘枝 様）

言葉は使いようと言いますが、同じことでも「リサイクル」というと新鮮に聞こえます。家庭でも、ものを大切に使うことが大事であると改めて感じさせられます。

【中高生部門優秀賞】

「使い捨て？ たった一つの 地球でも??」（岡山県 藤岡 秀美 様）

かけがえのないたった一つの地球の大切さが、たたみかけるような反語表現で強く訴えられています。

【小学生・幼児部門優秀賞】

「エコのこと おばあちゃんにも 教えたよ」（千葉県 チャーリー 様）

今では子どもたちも環境について色々学習しています。孫の方が逆におばあちゃんに「教えたよ」というところに微笑まじさが感じられます。

